

八王子千人同心日光往還ウオーク

第24回 田島駅から佐野駅 (計画)

集合 東武佐野線 田島駅 午前10時30分

歩行距離 約 8 km

第24回 (最終回) 田島駅から佐野駅

実施日 2023 (令和5) 年5月10日 (水) 天候 晴れ 気温 高く暑い

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

コース 田島駅 (10:12) ~新海陸橋辺りの交差点 (10:33) ~東光寺 (10:38~49)  
~普門院 (10:38~11:00) ~道標 (11:04) ~宝龍寺・銅造 阿弥陀如来坐像 (11:  
09~15) ~金山神社 (11:20~24) ~観音寺 (11:26~30) ~惣宗寺 (11:32  
~46)・山門・田中正造墓所・銅鐘・佐野東照宮・唐門~昼食・大師庵 (11:49~12:13)  
~日限地藏 (12:15~17) ~熊野神社・出流天狗殉難碑 (12:22~24) ~古民家・黒漆  
喰土蔵 (12:30~32) ~星宮神社 (12:35~39) ~千人同心日光往還例幣使街道合流点・  
本町交差点 (12:50) ~天明宿本陣跡~孫太郎神社 (13:03) ~佐野駅 (13:10)

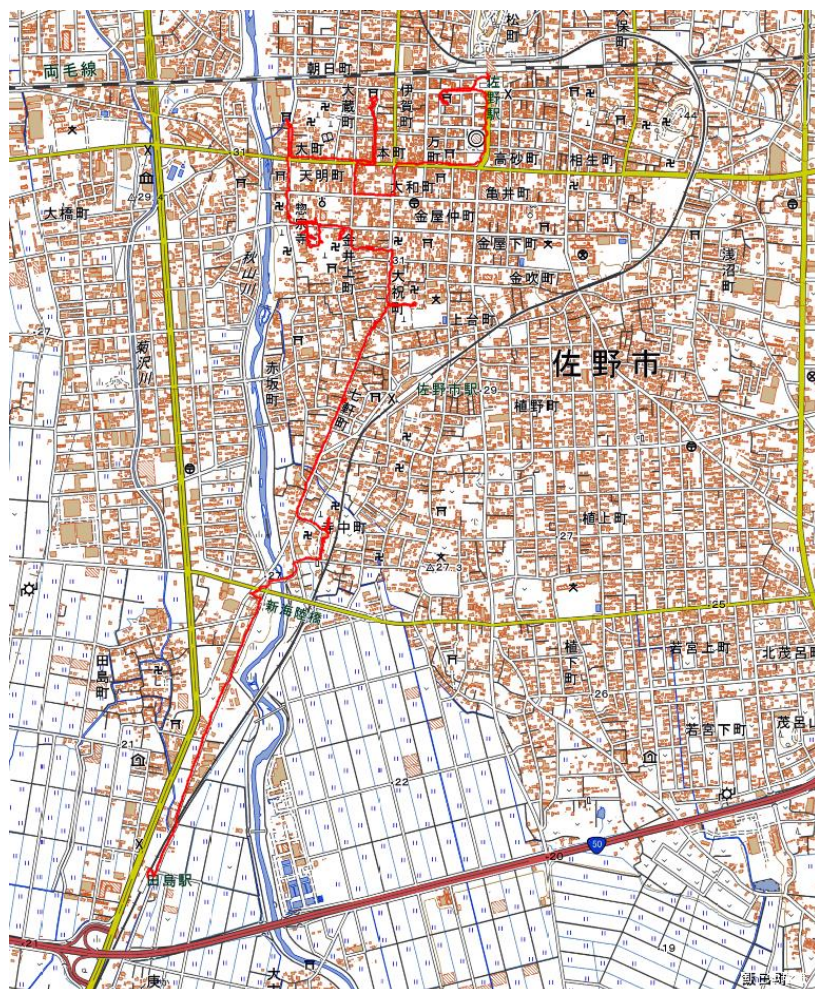
東武佐野線佐野駅13:32発館林行き

写真は、2020 (令和2) 年11月10日下見時と今回のものを使用。

GPS 歩行距離: 7.3km。累計歩行距離 223.6km。

全体所要時間: 2時間57分。移動時間: 2時間05分。停止時間: 52分。

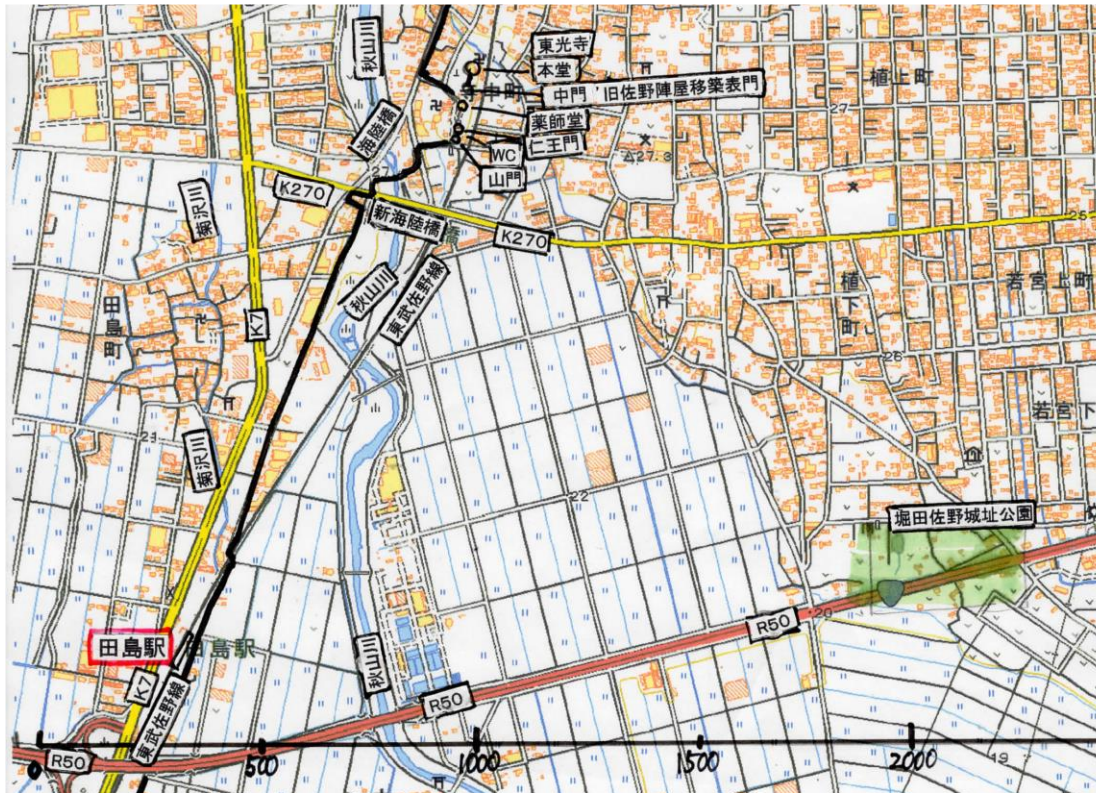
移動平均速度: 3.47km/h。全体平均速度: 2.45km/h。







今回も晴れ。今年実施日は全て天候に恵まれた。10時12分、東武佐野線田島駅を出発。田島駅の東口を出て、線路沿いを北に進み、佐野線の踏切を渡って一直線の道を淡々と進む。



踏切から900m程の国道270号線には一旦手前の左への道を行き、出た車道を右折して国道270号線（右の秋山川に架かる橋は新海陸橋 [しんかいりくばし]）を横切る。ここで、電車に乗り遅れてタクシーで来た折本さんと合流。（10:33）秋山川を「海陸橋」と「新海陸橋」の間の「人専用橋」で渡る。渡ると道は左カーブし下り、右からの道に合流するので、右に横断歩道を渡って直進。坂を下ると右手に小山の公園がある。「古墳みたいだな」と話をしていたが、帰ってから調べると「亀の子山古墳」という古墳であった。



その古墳の前に臨済宗の「亀峰山 東光寺」がある。(10 : 18 ~ 49) 階段の上に東光寺の山門がある。



東光寺山門

参道は、山門、仁王門（右側にWCがある）と続き、その先に薬師堂、その奥に中門と本堂がある。東光寺の西に隣接して「法雲寺」がある。



東光寺本堂



東光寺薬師堂

## 東光寺

東光寺は、臨済宗建長寺派の寺院で、本尊は薬師如来像。山号は亀峰山。

創建は、延暦年間（782～806）、伝教大師最澄が自ら彫刻した7体の薬師如来像の中で5番目のものを本尊として開いたのが始まりとされる。伝承によると本尊となる薬師如来像を託された広智上人が像を車に載せ関東を巡錫し当地に來訪した際、急に車が動かなくなった為、仏意を悟り、当地の領主にその故を話すと寺領が寄進され七堂伽藍が整備されたこととつたえられている。

その後荒廃しましたが康元元年（1256）、鏡堂覚円（建長寺七世）が天台宗から臨済宗に改宗し、月洲法乗禅師を中興開山として、自らは二世となっています。江戸時代に入ると佐野藩主堀田家の領内菩提寺として庇護されて寺運が隆盛し地域を代表する大寺院となっている。

東光寺山門は入母屋造、棧瓦葺、三間一戸。八脚楼門は下層部両側に仁王像が安置される仁王門。



東光寺仁王門



東光寺薬師堂

薬師堂は入母屋、銅板葺、桁行3間、軒唐破風向拝付き。

## 東光寺中門（なかもん）

文政九年（1826）植野の地に封ぜられた堀田摂津守正敦（まさあつ）が、同十一年（1828）に植野城（堀田佐野城。注）を築いた。その陣屋の大手門（表門）を明治四年（1871）廃藩置県に伴い、明治九年（1876）七月に堀田家の菩提寺である東光寺に移築したものである。

中門は江戸時代後期の城郭建築の貴重な遺構であるとして、佐野市指定有形文化財に指定されている。



東光寺中門

（注）堀田佐野城跡（所在地：佐野市植下町206-1）今年4月29日に訪れる。

堀田佐野城跡は植下町大原地区の植野馬門街道両側一帯にあり、東西540m、南北360m、周囲約1.8kmである。文政11年（1828）に築城され、41年後の明治2年（1869）堀田摂津

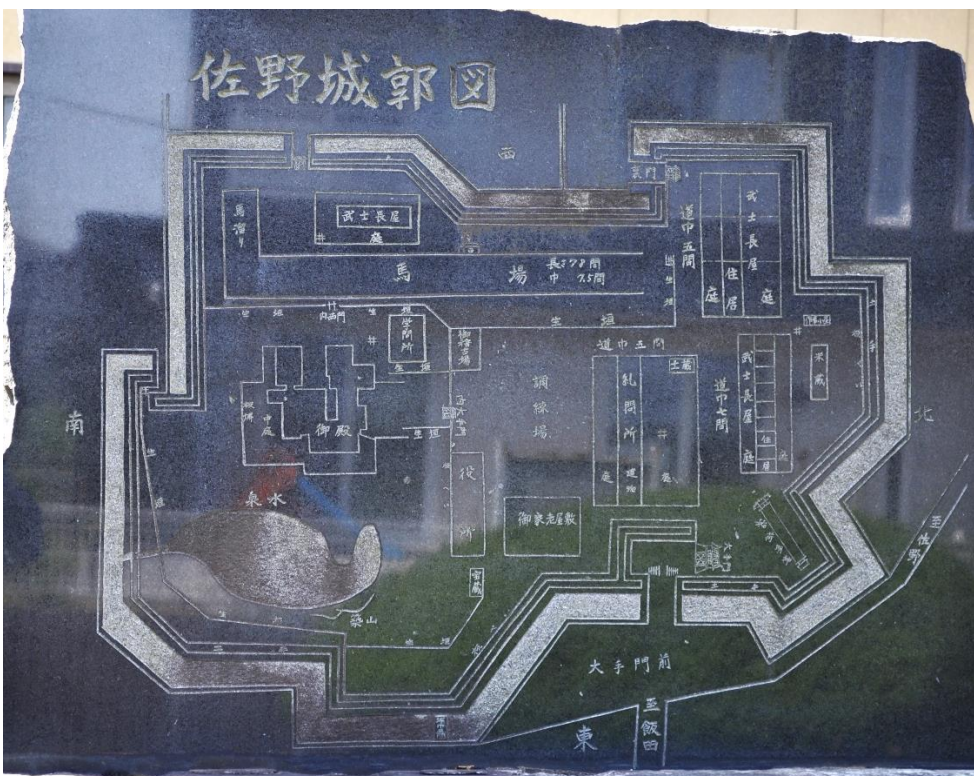
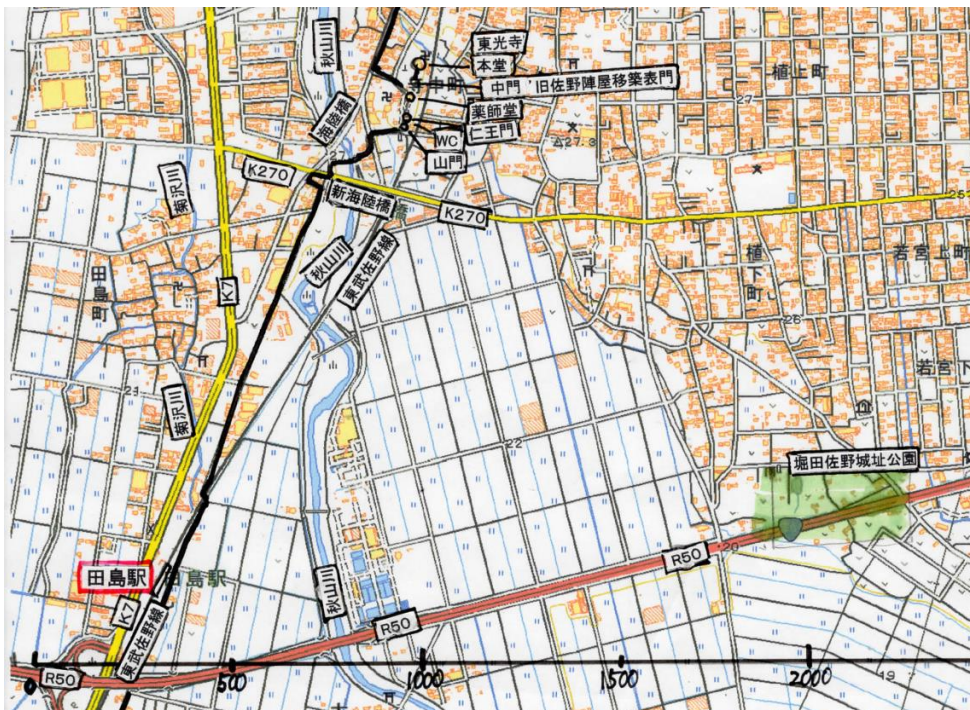
守正頌（まさつぐ）が版籍奉還して廃城となった。城跡中央部に建てられた佐野城壙の碑文は、旧家老西村茂樹が書いたもので、旧藩士の心情を格調高い文で刻んでいる。

（注）堀田佐野城跡隣接、堀田佐野城址公園解説板より

### 堀田佐野城（別名…植野城）

堀田佐野城は、徳川幕府の重臣堀田正敦が築いた近世城郭である。

城築造経緯は、大老堀田正俊の三男である堀田備前守正高が、貞享元年（1684）に築城したが、元禄十一年（1698）に近江国堅田に移封され、事実上の廃墟となった。





しかし、その後、文政九年（1826）に堀田摂津守正敦により、堀田氏一万六千石の陣屋として再興した。正敦は、徳川幕府の重臣にあったが、寛政の改革に若年寄として手腕を振るい、その功により文政十二年（1829）に三千石を加増された。

この事で、陣屋が城主格に格上げとなったと云われ、城主格とされていたので、堀田佐野城・植野城とも呼ぶ。

正敦の後、堀田家歴代藩主は正衡まさひら（七代）・正修まさもと（八代）と続いた。

幕末における佐野藩主は、正頌（まさつぐ）であったが、正頌は父正修（まさもと）の遺領を継承して藩主となった。

その後、堀田佐野城（植野城）は明治二年（1870）まで存続したが、その年の版籍奉還により廃城となった。同年、藩主正頌は佐野藩知事となり、明治四年（1872）廃藩置県によって佐野県知事となるが、それは同年十一月の栃木県成立までのわずか四ヶ月であった。

本城東側に「御泉水（おせんすい）」と呼ばれる泉が存在したが、本園地は、その形状を保存・継承しているものである。

中門のそばにある榎（かや）と広葉杉（こうようさん）。

#### 榎（かや）

榎は榎属に属し、この木の樹齢は300年から500年。

根回り6.6m。目通り5.0m。樹高19.0m。

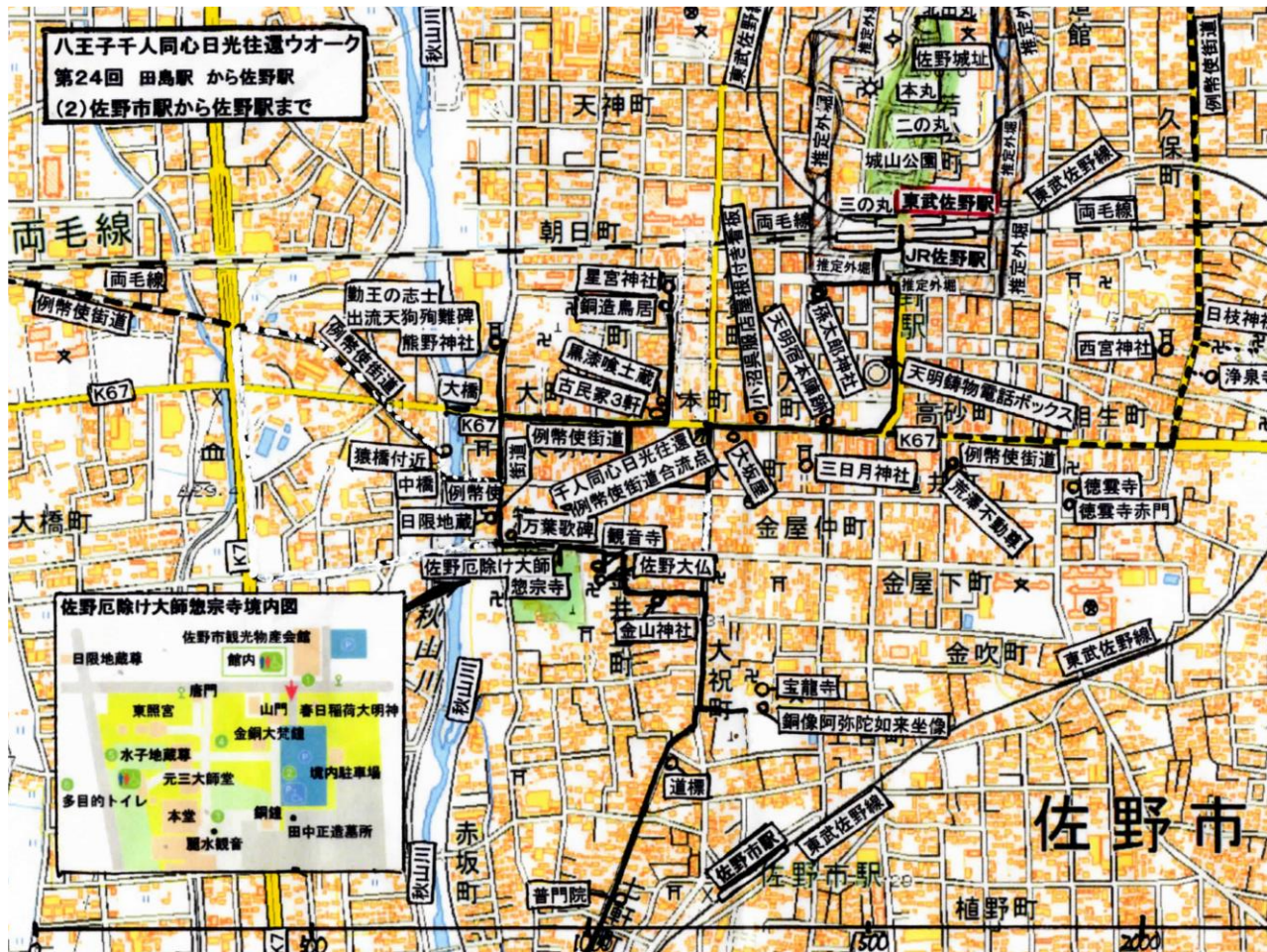
#### 広葉杉（こうようさん）

広葉杉は広葉杉属に属し、オランダモミ、リュウキュウスギ又はカントンスギともいう。この木の樹齢は300年から500年で佐野市の天然記念物です。

根回り4.5m。目通り3.1m。樹高19.0m。

中門と薬師堂の間を西に進むと、海陸橋からの車道に出るので横断歩道を渡って右折する。250m程のコインランドリーの看板がある三叉路で左への道を進む





三叉路から200m程の右側に「普門院」がある。(10:58~11:00)



### 普門院

普門院は、花林山延命寺普門院と号し、宗派は天台宗。

栃木県史第四巻寺院編によると、開山は燿陽律師で元龜三年（1572）三月が開基。燿陽律師は乱（信長による叡山焼討か？）を避けて佐野にきて、春日岡に至り、現在の場所に草庵を作り終焉の地とした。律師を慕う者が多く集まり寺となった。春日岡惣宗寺の末寺に編入して今日に至ったとある。

本尊は栃木県重要文化財に指定されている「鏡延命地藏半跏像（鏡延命地藏尊）」である。

鏡延命地藏尊は、天明（てんみょう）鋳物師の仏師第一人者といわれた長谷川弥一・藤原吉半をはじめとする名工達により江戸享保年間（1716～35）の末頃建立され、天明鋳物師たちによる傑作。



鏡延命地蔵尊は、左手に宝珠、右手に錫杖を持ち、左足を踏み下げ、像身78.8cmの半跏菩薩像で、鑄銅地蔵菩薩像としては最大級の大きさのお地蔵様と云われている。



**銅像地蔵菩薩半跏像**（境内の説明板より）〈拝観は事前に連絡。通常は不可〉

栃木県指定有形文化財 昭和43年3月13日指定

厨子に入った日輪光背の半跏の地蔵菩薩像の整った姿と、その膝下に遊んでいるような2童子の姿が対象的である。地蔵は鏡延命地蔵とよばれ、その背面に寂応という陰刻銘がある。寂応は普門院の住職で寛延4年（1751）に亡くなった人であるから、この仏像もそのころの作であろう。

高さは地蔵菩薩が78.8cm、こんがら童子が40.3cm、せいたか童子が44.9cmである。

佐野市教育委員会

普門院から街道を東北東に280m程進んだ右手に「道標」がある。（11：04）「右 たてばやしカハマた」「左 まかど こいな？」とある。



道標から80m程で佐野市駅から来る道と合流するY字路があり、Y字路から30m程の右側に「宝龍寺」がある。(11:09~15)



### 宝龍寺

山号は一溪山で浄土宗の寺院。本尊は阿弥陀如来。京都百万遍大本山知恩院の末寺。開山は遙蓮社岌順意上人。大永3年(1523)佐野氏第13代当主唐沢城主佐野泰綱によって創建される。永禄2年(1559)に泰綱の次男(佐野氏第15代当主)昌綱が旧地・田沼町字小見より現在地に移転再建。始めは山号を徳永山と号したが、再建に際して泰綱の戒名「東根院一溪唯禅大居士」の中から二字をとり「一溪山」と号するようになった。

境内の参道に「銅造 阿弥陀如来坐像」が鎮座している。



銅造 阿弥陀如来坐像(説明板より)

元禄七年(1694)天明の鑄工丸山孫衛門尉藤原信次の作である。蓮華の受花に広瀬家累代十九霊位の法名と建立のいわれが二百四十九文字で刻まれている。残念ながら関東大震災の影響で、御首の三道(注)の最下部が破損し、傾いている。

柔和な童顔をたたえる本像は江戸中期の天明仏師による代表的な作品である。

像高 409cm

平成十九年二月二十八日 佐野市教育委員会

(注) 三道：首にできた三段の横向きの線。

宝龍寺にゆかりの人物には、第4代住職呑龍上人、江戸時代、この地に知松庵（学問所）を建て陽明学を講義した陽明学者の中根東里がいる。

街道（日光往還）を進み、「金山神社」の案内板に従って左折した路地の奥に「金山神社」がある。（11：20～24）先に進もうとした時に、住人から「神社由緒記を持っていきませんか」と声をかけられ、取りに戻ると、「鳥居は船を造る鉄鋼製である」との説明があり。



#### かねがみさまと天命（てんみょう） 鋳物（金山神社境内の掲示板より）

佐野市は、その起源を天慶二年（939）とする鋳物の産地で、この地で造られた鋳物は天命（天明）鋳物と呼ばれ、その伝統が今日まで連綿と生きずいています。

当金山神社は、天命鋳物の最も栄えた江戸時代中期の寛保二年（1742）に創建され、「かねがみさま」と呼ばれて、鋳物師や住民の厚い信仰を集めていました。

ご祭神は、金山彦命、金山姫命の二柱で、総称して金山大明神。創建当時の社殿は天命鋳物繁栄を象徴する荘厳華麗なものだったことが絵図（文化三年、1806）から想像されます。

金山神社の歴史を物語る資料として、宝暦十年（1760）に書かれたという「天明鋳物師由来書」が納められていました。この古文書は、佐野の鋳物師たちが金屋寺岡から金屋町に至る三度の住居変遷を記述した貴重な文書です。又、天保三年（1832）に鋳造された日光輪王寺梵鐘（今も時をつけている）のその木型が拝殿額として奉納されてきました。（現在、佐野市郷土博物館に展示）

（後略） 天命鋳物師 若林洋一記

平成十八年六月四日

奉納 神恩感謝 金山大明神崇敬者一同

金山神社拝殿の軒下に「由来記」が掲げてある。

#### 金井上町鎮守 金山神社由来記（抄）

佐野は古くは天命（天明）と呼ばれ、平安朝の昔より鋳物業が殷賑を極めていた。製品は鳥居・燈籠（釣り燈籠）・銅祠・仏像・梵鐘・鰐口・茶の湯釜などが著名で、国の重要美術品に指定されたものも少なくない。中でも湯釜は室町時代、東の天命、西の芦屋（注 芦屋は筑紫国遠賀川の河口の芦屋津、現在の福岡県芦屋町）と喧伝され、数多くの名品を世に送り出した。正に天明鋳物は、佐野市が全国に誇り得る美術工芸品である。

鋳物を業とする人々、つまり鋳物師（いもじ）の崇敬篤い神が、通称カナガミ様と言われる「金山神社」である。御祭神は金谷彦命、金山姫命の二神で、治安二（1022）年に祀られたと伝える。しかし、鋳物師達が金井上町・金屋仲町・金吹町などに定住したのは、唐沢山城主佐野信吉が城山公園に築

城（春日岡城）の工を起こした慶長五（1600）年以降であるので、現在地ではない。

伝承によると天命の鋳物師達は、はじめ旗川の東岸寺岡村に住居し、治安三（1023）年に犬伏宿鋳師入（どじのいり）に移り「安三」と銘打った茶釜を製造したという。更に大治元（1126）年、城山公園の西北に位置する是閑・田町・堀米朱雀に移住した。してみると金山神社は、犬伏宿に創祀されたことになる。

慶長五年後、鋳物師達は町割の済んだ所定の場所に居を構えた。時を同じくして金山大明神を現在地に祀ったことだろう。寛保二（1742）年社殿を再築、次いで享和二（1802）年、江戸神田紺屋町二丁目の宮大工、田中伊兵衛が棟梁となり改築された。文化三（1806）年作成の「中山道例幣使道分間延絵図」には、鮮やかな朱の鳥居とともに、落成して間もない神社が描かれている。

鋳物師達は改築を祝い、社前で燈籠二基・火鉢三個・平釜一個などを鋳吹き奉納した。なお社守いわゆる別当は、春日岡山惣宗寺の院主が代々勤めていた。

日光輪王寺には天保三（1832）年四月、天命鋳物師によって鋳造された梵鐘が、今なお時を告げている。かつて、この梵鐘の木型が拝殿に奉納されていた（佐野市郷土博物館に展示）。木型には前年の天保二年六月二十五日に、梵鐘鋳造に立ち会った作事奉行や日光奉行など七名が墨書されている。

ほかに「大楽院様」と筆太にあるのは依頼主であろう。鋳物師は、大川四郎次をはじめとする大川・正田・小島・三木ら十八名であった。

明治五（1872）年、神社は無格社に列せられ金井上町の鎮守となった。例大祭は九月十五日のほか、元日を歳旦祭（さいたんさい）と称して氏子のほか鋳物業に携わる人々がお詣し、家内安全・商売繁盛などを祈願する。なお平成十七年の秋祭りには、佐野鋳物工業組合の方たちにより「金鈴」が奉納された。

平成十八年五月吉日 安蘇史談会会長 京谷博次記

奉納 神恩感謝 金山大明神崇敬者一同

平成十八年六月四日



覆屋の中にある本殿には素晴らしい日光彫が施されている。



金山神社の横の細道を奥に進んで突き当りを右に進み、信号交差点を左折し、30m程の左に「観音寺」がある。(11:26~30)

### 観音寺

観音寺は、日輪山千手院と号し、宗派は真言宗豊山派。境内に佐野市指定文化財の「佐野大仏」が祀られている。

室町時代後期大永三年(1523)に、佐野越前守秀綱(佐野氏第12代当主)によって安蘇郡天命村(現在の佐野市天明町)に建立された。その後、慶長七年(1602)徳川家康の命による、唐沢山城の春日岡への移城に伴い、現在地へ移った。(当時の領主であった佐野信吉は、佐野城下の建設に際し、城の南方の街道を中心に町並みを形成し、佐野川(現在の秋山川)東岸に寺をまとめて出城的要素をもたせた。)

### 佐野大仏

約350年程前の寛文9年(1669)に佐野家復興を願い建立された。佐野市周辺は約1000年前から伝わる天明鑄物の産地として知られ、像の鑄造も、3名の鑄物師たちの手により合作された。

江戸時代初期における天明鑄物の名作であり、徳川家や佐野家といった大名から民衆迄幅広く寄進を集めた全国でも珍しい歴史のある大仏である。

また、第二次世界大戦中の「金属供出令」も当時の住職と檀家の懸命な働きによって免れ、現在は佐野市指定有形文化財に指定されている。像高約3m。



### 銅像阿弥陀如来坐像 (境内看板より)

寛文九年(1669)斎藤伝七郎久重、太田小左衛門尉藤原秀次、大川久兵衛藤原信正等三人の天明鑄物師たちの合作である。

近在一〇里四方の信徒たちの発願により建立されたもので、露座の大仏として高く評価されている。像高313センチメートル。

平成七年十二月 佐野市教育委員会



観音寺の西隣に「佐野厄除け大師惣宗寺」がある。(11:32~46) 参道の入口に「関東の三大師 佐野厄除け大師」の看板と「厄除元三大師」と刻まれた石柱がある。



### 惣宗寺 (パンフレットより)

朱雀天皇の天慶七年(944)三月に奈良の僧有尊(ゆうそん)上人が開いた寺で、最初は日本の仏教で最も古い南都六宗の法相に属し、正しくは春日岡山転法輪院惣宗官寺という。

藤原秀郷公が平将門降伏の誓願により、佐野の春日岡(現在の城山公園)の地に、春日明神の社殿とともにお寺を建て朱雀天皇に申し上げたところ、天皇は大変喜ばれ「春日岡山惣宗官寺」の勅額を賜ったといわれている。それ以来、藤原一門の信仰あつく栄えたが、平安時代の末期の保元、平治の頃には

衰えた。

その後比叡山の僧で俊海という人が、父の藤原光憲から「春日岡は、わが祖先である秀郷公の創立した氏寺である。昔、保元、平治の乱に殿堂が焼けて灰になったが、父の志を継ぎ修行の後にこの山を復興せよ。」この事を深く心にとどめ、この寺の荒れ果てたことを憂い、正応年間（鎌倉時代）に信徒を集めて、藤原一族および北条氏一門の有志とはかり、鎌倉幕府九代執権北条貞時をさととして、永仁五年（1295）八月に復興完成し、これ以後伝教大師を宗祖と仰ぐ天台宗となる。

その後第十二世の僧豪海のとくに慶長五年（1600）、秀郷公から三十代の佐野信吉公が、唐沢城をこの春日岡（城山公園）に移すにあたり、寺は現在地に移転した。徳川時代には御朱印五十石を拝領し、寺社奉行も置かれ、三代将軍家光公も参拝する等徳川幕府との縁故も深い。

当山の本尊は、如意輪観音（厄除け元三慈恵大師）である。

### 厄除け元三慈恵大師（がんざんじえだいし）

大師は、法名を良源という。良源は延喜十二年（912）、近江国浅井郡虎姫（現在の滋賀県長浜市）に、地元の豪族・木津（こづ）氏の子として生まれた。

12歳の時（15歳ともいう）、比叡山に上り、仏門に入った。良源は、康保三年（966）に第18代天台座主となり、叡山中興の祖とあがめられた。永観三年一月三日（985年1月26日）遷化。享年74歳。朝廷から贈られた諡号は「慈恵」。命日が正月三日であることから「元三（がんざん）大師」の通称で親しまれている。「おみくじ」の創始者は良源だと言われている。

元三慈恵大師良源をかたどった護符には「角（つの）大師」「豆大師」「厄除け大師」等、様々あり、いずれも魔除けの護符として広く信仰を集めている。



角大師：角大師と呼ばれる図像には、2本の角を持つものと、眉毛が角の様に伸びたものの2種類ある。『元三大師縁起』などの伝説によると、良源が夜叉の姿に化して疫病神を追い払ったときの像であるという。

豆大師：紙に33体の豆粒のような大師像を表した絵である。慈恵大師良源は観音の化身とも言われており、観音はあらゆる衆生を救うために三十三の姿に化身するという「法華経」の説に基づいて33体の大師像を表したものである。この像は正確には「魔滅大師」といい、豆粒のように小さいから豆大師と名付けられたというのは正しくないという。



境内には、山門、春日稻荷大明神、金銅大梵鐘、田中正造墓所、銅鐘、麗水観音、本堂、元三大師堂、水子地蔵尊、東照宮、唐門がある。

- 山門：当山が江戸時代初期の慶長八年（1603）、現在の城山公園より現在地に移転する際に移されたもので、約十万石の格式をもつ大名の大門と同じ規模といわれており、総けやき造りの堂々たる風格を誇る山門。



- 春日稻荷大明神：藤原秀郷公が平将門降伏の誓願により佐野の春日岡（現在の城山公園）の地に春日明神の社殿とともに当惣宗寺を建立し、朱雀天皇の勅額を賜る。以来、春日稻荷大明神を鬼門除けの大明神として祀る。



- 金銅（きんづくり）大梵鐘：厄除元三慈恵大師一千年御遠忌を記念して昭和五十九年四月に建立された。日本一大きな金の釣鐘で、直径1.15m、重量約2トン。朱塗りの切妻造りの鐘楼におさめら



れている。



- 田中正造墓所：日本の公害の第一号といわれている足尾鉍毒事件の救世主・田中正造翁の分骨地。



- 銅鐘：江戸明暦期における当佐野市の天明鑄物の代表的な名作で、当時105人の鑄物師達が精進潔斎して造り上げた名作。佐野市指定の文化財となっている。

鐘の取り付けの個所に、日本では珍しいホロウという中国の文化に見られる架空の動物がつけられている。



- 麗水観音：平成24年1月9日未明、盗難に遭いましたが同年2月22日朝、近くの駐車場に雨の中一人でたたずんでおり、無事に帰ってきた。奇跡「れいすい観音」と呼ばれている。



- 水子地藏尊：昭和53年4月落成。御本尊は身の丈・約8尺余り、総金箔押しのお体で日本随一と言われている。建物も珍しい円型多宝塔造り。



佐野東照宮



佐野東照宮 拝殿



本殿



唐門（神門）

- 佐野東照宮、唐門（神門）：徳川家康の御霊を静岡県久能山より日光遷座（注・御尊櫃御成道）の途中、元和三年三月二十八日当寺に御殿が建てられ宿泊所とされた。その後、その御殿に東照大権現（家

康の御霊)の分霊が勧請された。このことにより、文政十一年(1828)に当佐野東照宮が建立された。境内の乾(いぬい)の地に造営され、本殿の前には拝殿、唐門(神門)を建立した。

佐野東照宮社殿は日光東照宮を模したものとされ、建物細部には精巧な彫刻が施され、**本殿**は一間社、入母屋造、正面背面には千鳥破風、向拝の柱・梁共に龍の彫刻が施されている。現状はガラス張りの覆屋で守られている。**拝殿**は入母屋造、銅瓦棒葺、桁行3間、梁間2間、正面1間向拝付、内部には狩野洞益(江戸時代後期の画家)による唐獅子が描かれている。**神門**は唐門形式、一間一戸、細部には龍や波、植物を模した彫刻が施され極彩色で彩られている。

本殿、拝殿、透塀、唐門は江戸時代後期に建てられた社殿建築の遺構で歴史的背景や意匠にも優れていることから昭和57年(1982)に栃木県指定有形文化財に指定されている。



#### 注：徳川家康御霊日光遷座道程(御尊櫃御成道日程)

元和2年(1616)4月17日家康死去。遺骸は久能山(静岡市)に埋葬、葬儀は増上寺(東京都港区)で執行、位牌は大樹寺(愛知県岡崎市)に安置する。3年後までに日光に小社を設けて御霊を勧請することに決められた。

元和3年3月15日 久能山出立し泊りは吉原・善徳寺(善徳寺御殿か・富士市今泉あたり)。

3月16日 三島まで。世古本陣か。

3月18日 三島から小田原。小田原城泊り。

3月20日 小田原から中原御殿(伊勢原市糟屋か)

3月21日 中原御殿から府中御殿。途中、木曾・小野路・瓜生を通る。

3月23日 府中御殿から川越仙波喜多院まで。

3月27日 川越仙波喜多院から行田忍城。

3月28日 忍城から館林を経て佐野の惣宗寺。

惣宗寺に霊櫃が到着すると境内周辺を千人の武士により警護され、内部には僧侶が集められ盛大な法要が執り行われた。元和2年(1616)に小山藩主本多正純が佐野氏の後の佐野領を加増されていた。法要参加を拒否した佐野家ゆかりの4か寺は廃寺に追い込まれている。

3月29日 佐野惣宗寺から日光例幣使街道を通り鹿沼の薬王寺まで。

4月 4日 鹿沼から日光山座禅院（今の輪王寺か）に到着。

惣宗寺を出て向かいのラーメン店・大師庵で佐野名物佐野ラーメンを食べる。（11：49～12：13）

西側の信号交差点の5・6m右手車道側に大石がある。この大石は「万葉歌碑」であるが、見落としてしまった。



『下野 安蘇の川原 石踏ず 空ゆと来ぬよ 汝が心告れ』  
安蘇の川原は、そばの秋山川のこととのこと。

交差点を渡り右折して15m程の左に涅槃寺の「日限（ひぎり）地藏尊」のお堂がある。（12：15～17）涅槃寺には寄らなかつた。



涅槃寺



涅槃寺本堂

### 涅槃寺と日限地藏尊

涅槃寺は天明山根本院涅槃寺と号し、宗派は時宗。本尊は阿弥陀三尊。創建は932年、開基は藤原秀郷。

#### 涅槃寺の由緒

当山は、藤原秀郷公により不断念仏の霊場として932年下野国佐野荘青柳に建立され、本尊は江州三井寺より奉りし阿弥陀三尊と言われている。その後、佐野荘天明村上田島の界に移し1092年天明山根本院称念寺と号した。

鎌倉時代、一遍上人遊行の折、領主佐野実綱公帰依。二祖真教上人の遊行の折、天命のうち寺領二十町を給わる。その後、寺宝（涅槃絵）の称讃を奏上させし後陽成天皇より「涅槃寺」の勅額を賜る。

江戸時代、天命宿を天明宿と改称、また遊行五十代快存上人、寺号を勅額の涅槃寺と改め、天明山根本院涅槃寺と改称する。

## 日限地蔵尊



### 日限地蔵尊

日限地蔵尊は、東京白金にある松秀寺より勧請された。日限という言葉は、日を決めて願いをかければ、必ずその日までに願いが叶うという意味。

計画では、秋山川を渡った先の県道7号を右折し、500m程先の例幣使街道を右折し、中橋で秋山川を渡り日限地蔵尊からの道に合流する予定であったが、暑くなってきたので削除し、県道67号線の北にある熊野神社へ向かうことにした。

### 例幣使街道（日光例幣使街道）

元和3年4月4日、徳川家康の霊柩が完成した日光東照社に到着、4月8日に奥院廟塔に改葬された。3代将軍家光の時、寛永11年（1634）に社殿の大規模改築が行われた。

正保2年（1645）、朝廷から官号が授与されて東照社から東照宮に改称した。翌正保3年からは朝廷からの奉幣が恒例となり、奉幣使（日光例幣使）が派遣された。このために整備された道が日光例幣使街道で、中山道の倉賀野宿から分かれ日光西街道の榎木宿までの14宿。その先は日光西街道の鹿沼宿・板橋宿などを経て今市宿で五街道の一つである日光街道に合流し東照宮に至る。

中橋から来た例幣使街道は日限地蔵尊から来た道と合流し左折する。110m程で県道67号線の信号交差点に出るので右折する。この道・県道67号線が例幣使街道である。

我々は交差点を北へ直進する。120m程の左に熊野神社がある。（12：22～24）



熊野神社は間口1間、奥行き1間の小さな社で、祭神は伊弉諾命、伊弉冉命である。境内裏手に石碑が2基あり、左手の石碑が「勤王の志士 出流天狗殉難碑」である。

出流天狗殉難とは、出流山事件で倒幕の志士が捕縛され、佐野天明宿の秋山川川原で処刑された。出流山事件とは、江戸時代末期、大政奉還後の慶長3年11月29日（1867年12月24日）、下

野国出流山満願寺・現在の栃木市出流町にて尊王・倒幕を志士の一団が挙兵し、その周辺で幕府軍と戦闘を繰り広げた事件。志士の総数150名ほどで11月29日から12月13日まで、下野国出流、栃木宿、岩船山周辺で幕府軍約1000人と戦闘。倒幕志土方壊滅。捕縛された48名が佐野秋山川で処刑される。(碑は、処刑された志士を悼み、建立されたもの。)



県道67号線を左折(東方へ)し270m程の左側に古民家が3軒並んでいる。右端の店は、味噌まんじゅうが売りの「まちの駅 新井屋」で、明治10(1877)年頃に建てられたという見世蔵で、もともとは土佐屋という調剤薬局だったとのこと。(12:30)



右端の「まちの駅新井屋」の先を左に入った所に「黒漆喰の土蔵」がある。

その奥130m程に星宮神社の参道入口があり、参道の奥、階段下に「銅造鳥居」があり、階段を上ると社殿がある。(12:35~39)



星宮神社参道入口



銅造鳥居



星宮神社拝殿



星宮神社 本殿 (彫刻が素晴らしい)

### 星宮神社 (ほしのみやじんじゃ)

当社は、久安年間（1145～50）の草創。境内の丘陵地は古来ミササギと称し、古墳である。慶長年間、佐野城築城の際に内堀外堀の土をもって山上を広げた。延宝4年（1676）領主井伊直澄逝去の際の遺金をもって天和3年（1683）に再建された。

祭神は、迹々杵尊、配神は磐裂、根避神。神仏分離までは虚空蔵菩薩が祀られていた。旧社地は七ツ塚と呼ばれ、北斗七星に塚を配置、星宮妙見大菩薩を祀る地とされている。

**銅造鳥居**は、享保20年（1735）、氏子が奉納。佐野市指定有形文化財である。

県道67号線に戻り右折（西へ）し70m程の信号交差点を左折し、110m程の次の十字路を左折し、140m程の次の信号交差点を左折。この道が千人同心日光往還で、110m程で**例幣使街道**との合流点・本町交差点に着く。ここが今回のウォークの終着点である。



左右の道路が例幣使街道。右に行けば日光。

これから日光までは例幣使街道で鹿沼、鹿沼から壬生街道を今市へ。今市で日光街道に合流し日光橋となるが我々の千人同心日光往還は例幣使街道との合流点・本町交差点で終了とする。

本町交差点を右折して佐野駅へ向かうが、途中、見どころがある。しかし、以下の3カ所については参加者の皆様には在ることの説明はしなかった。お詫びしたい。

本町交差点から30m弱の右手に弘化元年（1844）創業の老舗和菓子店「大阪屋」がある。天明

50m弱進んだ左側に屋根付き看板がある「小沼呉服店」がある。



和菓子店 大阪屋



小沼呉服店の屋根付き看板

右側の次の道を入れて次の信号のある丁字路を左折し、60m程進んだ左の奥にあまり見かけない名前の「三日月神社」がある。



三日月神社本殿

### 三日月神社

当社の創建は不明。元は唐沢山城にあり、廃城で当地へ移転。月読命を祀り、イボ取り・皮膚病の神様として知られている。

本町交差点を右折し、県道67号線（例幣使街道）を進み、次の信号交差点を渡り、100m程の左側・群馬銀行佐野支店のあたりに「天明宿本陣」があったのだが今は案内板も無い。



群馬銀行辺り



銀行前の「通り説明板」



佐野駅前交差点を左折。佐野市役所の北東角に「天明鑄物の電話ボックス」がある。



そのまま北に進むと突き当りに佐野駅のロータリーがある。その信号交差点を左折し、左側2本目の通りを入り、50m弱の右への道を50m程進むと左手に北向きに建つ「孫太郎神社」がある。(13:03)



#### 孫太郎神社（境内掲示板より）

主祭神 豊受姫命。 配神 宇賀魂神、猿田彦神、豊城入彦神。

#### 縁起

通称「孫太郎様」と親しまれているこの神社は、今を去る千六十余年の昔に創建されたといわれています。

天慶の乱（938～940）に平将門を討った田原（俵）藤太秀郷により、天命の春日ノ岡（現在の城山公園）に建てられた寺の守護神として祀られました。しかし、寺も神社も保元・平治の乱（1156～1159）に兵火に遭い、荒廃してしまいました。その後、文永年間（1262～1272）に寺は俊海上人によって再興され、同じ時期に神社もまた修復されましたが、その再建に力を尽くしたのが孫太郎と称していた秀郷8代の子孫に当たる足利家綱でした。

里人達は、それを大変な徳としまして、それから後、神社の名を「孫太郎明神」と誰いうとなく呼びならわし、いよいよ崇敬の念を篤くしたとされています。

尚、異説として鎌倉時代の武将・佐野孫太郎義綱が讒言にあつて、領地をすべて没収されるという悲運に遭いましたが、稲荷社に自身の無実が晴れることを懸命に祈願したところ、その甲斐あつて疑いが晴れ、無事に領地を取り戻すことが叶いました。

その謝恩の念を込めてそれまで無名であつた稲荷社を春日ノ岡に「孫太郎神社」としてお祀りしたのが由縁であるという故事も伝わっています。

慶長7年（1602）唐沢山城城主・佐野修理太夫信吉は春日ノ岡に新しく城を築くこととし、天命の街づくりに着手しました。このために従来あつた寺は安蘇川（現在の秋山川）左岸に城下の防備を兼

ねて移されました。この寺が厄除け大師で知られる春日岡惣宗寺であります。しかし、稲荷社は新たな春日岡城の守護神としてそのまま鎮座されました。その往時、神徳のあらたかな社として参詣者は日々市をなすほどの賑わいを見せたと伝え残されています。

やがて、時移り大正6年（1913）3月、関係者特に伊賀町有志の尽力により城山公園の鎮座する孫太郎神社を現孫太郎公園内に遷座し、町内鎮守の神として尊崇されて参りました。その後、平成7年（1995）10月、駅南土地地区画整理事業に伴い現在地に遷座、今に至っております。また春日岡城、唐沢山城の守護神であるとして北向きに構える社であられることは、全国でも稀な存在として注目されています。

佐野駅は、南口側がJR両毛線佐野駅で北側に東武佐野線佐野駅がある。



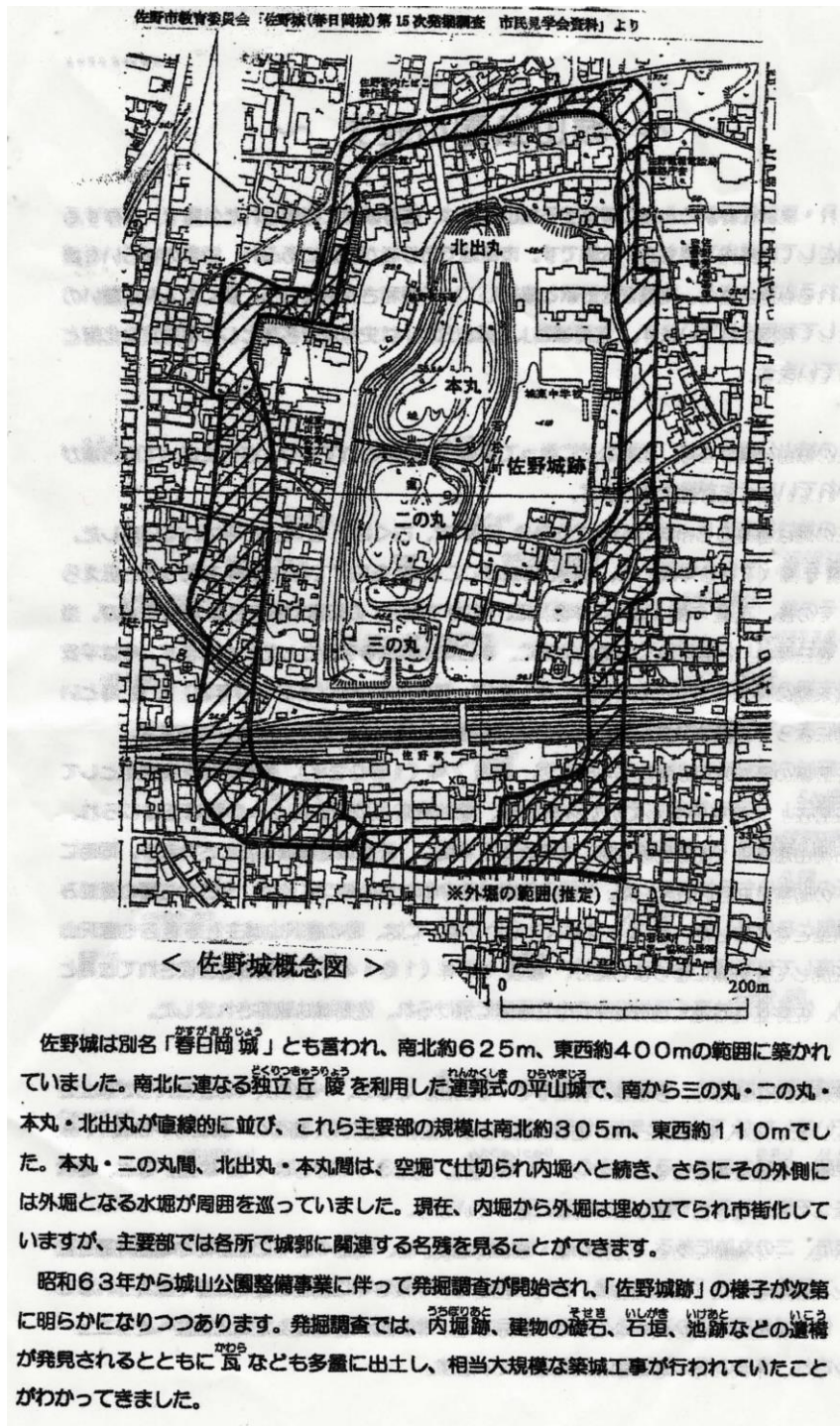
佐野駅に13時10分に着く。最終回の記念写真を撮る。



その後、佐野駅自由通路を通過して北口に出、そこの春日岡佐野城三の丸を見る。



佐野駅の北側に「佐野城址」がある。



春日岡佐野城は慶長7年（1602）に、佐野氏が唐沢山城から春日岡に移城を命じられ、慶長19年（1614）に佐野信吉が領地没収、改易となり信州松本の小笠原家に預けられ、佐野城が破却されるまでの12年間の城であった。

#### 佐野市指定史跡・名勝 佐野城跡（掲示板より）

佐野城は、別名春日岡城とも言われ、その地名は、延暦元年（782）藤原藤成がこの丘に春日明神を祭ったことに由来すると伝えられています。慶長7年（1602）、唐沢山城主佐野信吉は、当時この地にあった惣宗寺（佐野厄除け大師）を移転させるとともに、築城と町割を開始しました。

今日見られる佐野の街は、当時の佐野城を中心とした町づくりが原型となっています。佐野氏は、慶長12年（1607）唐沢山城を廃してこの地に移りましたが、同19年（1614）所領を没収され改易となり、築城後間もなく城は廃城となってしまいました。

城は、独立丘陵を利用した連郭式の平山城で、南から三の丸・二の丸・本丸・北出丸と直線的に続く郭で築かれています。これら縄張の主郭部は、全体で東西110m、南北390mの規模を有し、それぞれの間は空堀で区切られ、内堀へと続いていました。現在、内堀から外堀の範囲は市街化が進み、完全に埋め立てられていますが、主格部は当時の城割りの姿を良好に留めており、貴重な歴史文化遺産として後世に伝えるべく史跡・名勝に指定されています。

#### 佐野城北出丸（掲示板より）

この場所は「北出丸」あるいは「鐘の丸」といわれ、本丸の北側を守る場所である。江戸時代の記録には、東西約36m、南北約54m。

本丸との間の堀幅約14mと記されているが、建造物等の詳細については不明であった。

平成元年に一部発掘調査が行われ、テラスが建設された場所には岩盤をくり抜いた柱穴と思われる遺構が発見され、多量の瓦も出土し、「隅やぐら」（見張台）の跡とも考えられる。また、西側の階段付近には、「搦手」（城の裏口）があったと考えられ、防御の点から複雑な地形を構成しており、重要な場所であったことが確認された。平成元年 佐野市

#### 佐野城外堀（掲示板より）

発掘調査の結果、築城開始から廃城まで僅か12年の短期間ながら、近世城郭としての機能はすでに完成されていたものと考えられます。外堀は、東西300m、南北600m四方の城郭を取り囲み、幅も広いところでは数十mに達していました。

東武佐野線佐野駅13時32分発館林行きに乗る。

2020（令和2）年2月に始めた「大山街道八王子道」は途中東松山市東平から八王子までは千人同心日光往還と重なり、2022（令和4）年12月に大山街道八王子道を終了後、東松山し東平から吹上、行田、館林、佐野と日光往還を歩き、今日、例幣使街道と合流。

総歩行距離 223.6kmでした。

年を取って足腰が弱り、歩行距離が段々短くなり、また、新型コロナで休止をせざるをえなくなり、完遂まで長期間になってしまい、どうなることかと思いましたが無事に歩き通す事ができました。

大変 お疲れ様でした。